

第28回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成26年10月7日（火） 19：00－21：00

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、頓宮宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 各部会の検討状況の報告について

新宇宙基本計画の策定に向けた基本政策部会の検討状況について、資料1及び資料2に基づいて中須賀部会長から報告を行った。次に、宇宙輸送システム部会の検討状況について、資料3及び資料4に基づいて山川部会長から報告を行った。最後に、宇宙科学・探査部会の検討状況について、資料5に基づいて山川委員から報告を行った。

(2) 新宇宙基本計画に盛り込むべき内容について

文部科学省から、新宇宙基本計画の策定に係る意見表明の要望があったため、田中研究開発局長から説明を聴取し、その内容について審議を行った。その後、第27回宇宙政策委員会で中須賀基本政策部会長が提出した資料(参考資料2)を踏まえ、新宇宙基本計画に盛り込むべき内容について審議を行った。

主な意見は以下の通り。

- 新型基幹ロケットは、打上げ費用の50%削減を目標にして検討を進めているが、部品のまとめ発注をすれば、更なる削減余地もあると認識している。
- ロケットの部品枯渇対策は、アビオニクス等、衛星と共通の部品があることも念頭に置きつつ、総合的に検討する必要がある。
- 大型の液体燃料ロケットと小型の固体燃料ロケットには、それぞれの個性や能力に応じたニーズと意義があり、これらを踏まえて進める必要がある。
- 宇宙科学や宇宙探査の分野では、有人か無人かの議論が長らくある。「いろいろな人の意見を聞いて平均を取る」という話ではないので、遠くない将来において決断する必要がある。
- (「安全保障や産業振興と科学技術を同列に扱うべき」という文部科学省からの意見に対し) 科学技術で成果を上げていくには、安全保障などの「出口」を最初から想定して進めることが重要である。「出口」をしっかりと明確化することが必要であると認識している。
- (「ISSも安全保障に資する科学技術の一環として重視すべき」という文部科学省からの意見に対し) 先日の宇宙開発戦略本部での安倍総理の指示や国家安全保障戦略に基づいて、宇宙政策の優先順位を目に見える形でしっかりつけていくべきである。
- 有人宇宙活動や宇宙科学・宇宙探査については、今後、宇宙政策委員会宇宙科学・探査部会において、各国の状況を分析しつつ、我が国として取り組むべき意義等を議論していく。 以上